

令和3年度 京都府立宮津高等学校伊根分校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

令和4年3月24日

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>智力、人間性、体力が調和した生徒の育成をめざす。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒一人一人が安心して楽しく過ごせるクラス・学校作りを行う。</li> <li>2 すべての生徒に基礎学力を定着させるため、授業のユニバーサルデザイン化を推進する。</li> <li>3 関係専門機関との連携を強化し、多様な生徒に応じた支援を行う。</li> <li>4 生徒一人一人の能力・適性を把握し、系統的な進路指導を行い希望進路の実現を図る。</li> <li>5 人間的な触れあいを密にしたきめ細かな指導により、心豊かな人間性を育てる。</li> </ol>	<p><b>【成果】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒・保護者による学校評価アンケート（全項目）において、88.3%が肯定的評価であり高水準を維持した。</li> <li>2 特別な支援を要する生徒に関する支援会議や教職員研修を計14回実施することができた。また、授業のユニバーサルデザイン化に関する授業研究が充実した。</li> <li>3 4年生全員が勤労体験学習を最後までやり遂げた。特に自らの体験を発表させる指導を充実させることにより、自己の在り方を振り返って、社会性を向上させることができた。</li> <li>4 外部機関と連携して個に応じた指導を工夫した。</li> </ol> <p><b>【課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生徒による学校評価アンケートにおいて、授業・部活動・学校生活全般に関する評価が低下した。感染防止と教育活動の両立についてさらなる工夫が求められる。</li> <li>2 教職員と生徒、生徒同士のふれあいの中で、生徒の自己肯定感を向上させる取組を充実させる必要がある。</li> <li>3 勤労体験学習を充実させる。特に総合的な探究の時間やLHRとの連携を強化する。</li> <li>4 個に応じた指導法の研究をさらに進める。</li> <li>5 保護者への情報発信を継続するとともに、保護者が参加しやすい学校行事を企画する必要がある。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 学習への興味関心を引き出すための方策を研究し、暗記中心の学習ではなく、思考力重視の深い学びを追求する。</li> <li>2 生徒減に対応し、感染対策と両立させつつ、可能な限り学校行事の活性化を図る。</li> <li>3 個に応じた指導法の研究を進め、一人ひとりの生徒が「わかる楽しさ」を実感できる授業を展開する。</li> <li>4 規範意識の醸成を図るために、生徒指導を充実させる。特に温かく思いやりのある集団作りに努める。</li> <li>5 「総合的学習（探究）の時間」等と連携して勤労体験学習の一層の充実を図る。またアルバイトやインターンシップへの参加を積極的に促し、生徒の社会性の向上を図り、自己有用感を得させる。</li> <li>6 進路実現に必要な基礎学力を身につけさせる取組や進路面談の充実を図る。</li> <li>7 生徒の健康に関する意識向上を図り、健全な生活習慣を身につけさせる。</li> <li>8 社会生活を営むために必要な力を育むため、ソーシャルスキルトレーニングや学校行事、体験学習を充実させる。</li> <li>9 生徒面談を充実させるとともに、家庭や外部機関との連携を強化する。</li> <li>10 各学年の課題に応じて「総合的な探究の時間」を計画的に実施する。</li> </ol>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題									
組織・運営	学校の教育活動全体を活性化し、保護者・生徒からの信頼を高める。	<p>新型コロナウイルス感染防止に配慮しつつ、学校行事や協働的な体験・探究活動を活性化し、生徒の自己肯定感を育む。[生徒による学校評価アンケートにおける全項目のA+Bの割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～80%</td> <td>79～70%</td> <td>70%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～80%	79～70%	70%未満	A	<p>学校評価アンケートにおけるA+Bの割合は、93.1%であった。昨年度はコロナ禍による制約により、学校生活に対する満足度が大幅に低下したが、今年度は一昨年と同水準に回復した。感染対策と教育活動の両立を図った成果であろう。</p> <p>教職員研修を13回実施した。特に、外部講師を招き特別支援教育とICT活用に関して研修を実施し、講師から積極的に学ぶ姿勢を高く評価された。今後、学んだことを実践に活かす努力と工夫が求められる。</p>	
	A	B	C	D									
90%以上	89～80%	79～70%	70%未満										
個に応じた指導法の研究を進める。	<p>生徒の特性に応じた指導法（含 ICT活用）をテーマとする教職員研修や授業研究を実施する。 [教職員研修（含 支援会議）の実施回数]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>15回以上</td> <td>14～12回</td> <td>11～8回</td> <td>7回以下</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	15回以上	14～12回	11～8回	7回以下	B			
A	B	C	D										
15回以上	14～12回	11～8回	7回以下										
教務部	生徒の実態に応じ、指導方法や指導体制を工夫改善し、個に応じた指導の充実を図る。	<p>学習環境の整備や各教科においてICT機器等を効果的に活用する等、授業のユニバーサルデザイン化による一人ひとりの生徒が「わかる楽しさ」を実感できる授業を推進する。 [授業アンケート項目2～5のA評価の割合]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>85%以上</td> <td>84～75%</td> <td>74～65%</td> <td>65%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	85%以上	84～75%	74～65%	65%未満	A	A	<p>授業公開や研修等を通じて授業のUD化を推進を図った。授業に関するアンケート項目のA評価の割合は85.4%と、昨年度（72.4%）より上昇していることから、今後も継続して授業のUD化を推進していきたい。</p>
A	B	C	D										
85%以上	84～75%	74～65%	65%未満										
生徒指導部	安全安心な学校づくりを推進する。	<p>規範意識、人権意識、道徳心の向上と豊かな人間性の育成を目指す。 [目標：生徒の自己評価80点以上（独自アンケート）]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80点以上</td> <td>79～70点</td> <td>69～50点</td> <td>50点未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80点以上	79～70点	69～50点	50点未満	A	<p>規範意識、人権意識、道徳心の評価はAであった。生徒会活動、部活動の評価もAであった。特に生徒の規範意識が向上したことで安心・安全な環境を維持することができた。生徒会活動と部活動についても色々な工夫と先生方の協力を得て活動をすることができ</p>	
	A	B	C	D									
80点以上	79～70点	69～50点	50点未満										
生徒会活動やクラブ活動の充実を図り心身の健康をめざす。	<p>生徒会活動、部活動を通じて自己肯定感を高める。 [目標：生徒の自己評価80点以上（独自アンケート）]</p>												

		<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80点以上</td> <td>79～70点</td> <td>69～50点</td> <td>50点未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80点以上	79～70点	69～50点	50点未満	A		た。生徒たちの自己肯定感を高めることができた。
A	B	C	D										
80点以上	79～70点	69～50点	50点未満										
進路指導部	生徒の進路意識を高め、社会性や職業観の育成、自己理解を促し、希望進路の実現に向けて指導及び支援を行う。	<p>全員の希望進路実現を目指す。 [希望進路を実現した人数（4年生）]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>6人</td> <td>5人</td> <td>4人</td> <td>3人以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	6人	5人	4人	3人以下	A	A	本人及び保護者の希望進路を優先させ、情報を提供しながら勧めた。少し高めの設定もあったが1回目の応募で内定・合格となった。
A	B	C	D										
6人	5人	4人	3人以下										
保健部	健康安全に関する啓発活動を行い、基本的な生活習慣の見直しを図る。	<p>保健だよりを活用し、生徒自らが健康に関する学びを深める機会を増やす。 ライフスタイル指導を継続して行う。 [放課後の運動の実施回数]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>20回以上</td> <td>10～19回</td> <td>5～9回</td> <td>4回以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	20回以上	10～19回	5～9回	4回以下	A	A	<p>健康診断のまとめや生活アンケートを基に、2度の保健部面談を全生徒に対して実施することができた。生活習慣にも向上がみられ、受診率も上がった。 放課後の運動は年間を通して計42回実施できた。</p>
	A	B	C	D									
20回以上	10～19回	5～9回	4回以下										
個々の生徒のメンタルヘルスの安定に努める。	<p>スクールカウンセラーによる全員面談を実施する。 休み時間等に保健部が保健室にいる時間を作り、生徒の心身の健康状態の把握に努める。 [生徒学校評価アンケート1,2の項目A+Bの割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>60～79%</td> <td>40～59%</td> <td>40%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	60～79%	40～59%	40%以下	A	生徒学校評価アンケート1,2の項目A+Bの割合は85%であった。スクールカウンセラーによる全員面談を実施できた。生徒へのこまめな声かけを行うことで心身の健康状態を知り、担任と連携を取りながら支援を進めることができた。		
A	B	C	D										
80%以上	60～79%	40～59%	40%以下										
第3学年	個人により価値観の違いが生じるが、それを理解し、許容できるように心の成長を促す。	<p>HR活動や行事等を利用し、他者とコミュニケーションをとる機会を増やし、様々な意見を聞き吸収する経験を積ませて、豊かな社会性を育む。 [生徒の学校評価アンケート1～3の項目のA+Bの割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満	B	B	学校行事などで、他者と協力する機会が有効に活用できた。欠席した生徒へ他の生徒がノートの写メを送るなど、細やかな配慮ができるようになった。
A	B	C	D										
90%以上	89～70%	69～50%	50%未満										
第4学年	全員の希望進路実現を図る。	<p>勤労体験学習を通して働くことについて学ばせるとともに、個人面談を継続して行い納得のいく進路を</p>			進学決定者2名、就職決定者4名。全て第一希望で決定すること								

		<p>現させる。</p> <p>[希望進路の実現]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>6名</td> <td>4～5名</td> <td>1～3名</td> <td>0名</td> </tr> </table>	A	B	C	D	6名	4～5名	1～3名	0名	A	A	<p>ができた。進路指導部と連携し、本人・保護者と話し合いながら指導を進めることができた。</p>
A	B	C	D										
6名	4～5名	1～3名	0名										
国語科	<p>1時間の授業の中で、一つは「わかった」「できた」が実感できる指導を行う。</p>	<p>取り組むべき課題を明確に示し、生徒の理解度によって個別に助言を行う。</p> <p>[生徒の授業評価アンケートA+Bの割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満	A	A	<p>授業評価アンケートA+Bの割合は97%であった。「授業は真面目にかつ一生懸命に取り組んでいる」という項目ではA Bの割合が100%であり、生徒自身の達成感も高いことがわかった。今回の結果を基に、次年度は一つ上の目標設定を考えたい。</p>
A	B	C	D										
90%以上	89～70%	69～50%	50%未満										
地歴公民科	<p>現代社会の諸問題に関心を持たせることにより、主権者として生きていく力を養う。</p>	<p>I C T機器を活用して地図や写真、絵画、視聴覚教材を生徒に提示していく。また、一般常識などの小テストや課題の反復練習により、学力を定着させ、社会への関心を持たせる。</p> <p>[生徒の授業アンケートの項目9と10のAの割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～50%	50%未満	C	C	<p>「授業には、真面目に、かつ一生懸命に取り組んでいる」及び「課題提出や締切日の厳守など、先生の指示をよく聞いて守るようにしている」で「A」と回答した割合は66.7%であった。昨年度が55.6%であったので、一定の成果は出ているが、授業に興味・関心を抱かない生徒も見受けられた。社会に対してより興味を持つような授業の展開や、課題をこなしたことが考査の点数につながることを実感させるようにしていきたい。</p>
A	B	C	D										
90%以上	89～70%	69～50%	50%未満										
数学科	<p>生徒個々の学力・能力を把握・分析し個々の実態に合わせた授業を展開し、興味・意欲・達成感を持たせる。</p>	<p>生徒に学力を定着させる為、一人ひとりの能力や個性に応じた学習指導を展開し、「わかる楽しさ」を実感させ授業の充実を図る。</p> <p>[生徒による授業アンケートにおけるA+Bの割合]</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～80%</td> <td>79～70%</td> <td>70%未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～80%	79～70%	70%未満	A	A	<p>授業アンケートのA+Bの割合は100%であった。本年度は選択科目なので得意としている生徒ではあったが、成績に波があった。全員が80点越えを目指したい。雰囲気作りに課題があった。</p>
A	B	C	D										
90%以上	89～80%	79～70%	70%未満										

理科	<p>自然や科学に対する興味や関心を喚起し、科学の生活への貢献についても理解させる。</p>	<p>普段何気なく見過ごしている現象に科学的な視点から説明を加え、理解を深めさせる。また、様々な発見や発明が、当時やその後の生活にどのような影響を与えたかを説明し、科学の重要性を考えさせる。 [生徒の授業評価アンケートA+Bの割合]</p> <table border="1" data-bbox="871 368 1433 442"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～80%</td> <td>79～60%</td> <td>59%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～80%	79～60%	59%以下	B	B	<p>「板書の字は、丁寧で読みやすい」と回答した生徒の割合が増加した。「授業評価」では、A+Bの割合は93%と高かったが「生徒の自己評価」のA+Bの割合は77%と低かった。生徒は真面目に授業に取り組んでいるように見えていたので、この結果は意外であった。</p>
A	B	C	D										
90%以上	89～80%	79～60%	59%以下										
保健体育科	<p>健やかな心身の育成と生涯体育につながる資質や能力の向上を図る。</p>	<p>生徒が主体的、意欲的に運動に取り組むことにより、体力の向上と健やかな心身の育成を目指す。また生涯体育に繋げるために、ICTを導入しスポーツに対して興味や関心を高めるていく。 [目標：生徒の自己評価80点以上(独自アンケート)]</p> <table border="1" data-bbox="871 699 1433 772"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>80点以上</td> <td>79～70点</td> <td>69～50点</td> <td>50点未満</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80点以上	79～70点	69～50点	50点未満	A	A	<p>独自アンケート結果はA評価であった。生徒一人一人が主体的、意欲的に運動に取り組むことができた。スポーツに関心を高めることができた。次年度も引き続き丁寧な指導を続けていきたい。</p>
A	B	C	D										
80点以上	79～70点	69～50点	50点未満										
芸術科 美術	<p>生涯にわたって造形的な視点を持ち美術と関わっていけるよう、美術文化についての理解を深める。</p>	<p>美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。[授業アンケートにおける全項目のA+Bの割合]</p> <table border="1" data-bbox="871 995 1433 1069"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>96%以上</td> <td>95～86%</td> <td>85～76%</td> <td>75%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	96%以上	95～86%	85～76%	75%以下	A	A	<p>幅広い題材を表現・鑑賞の授業と共に扱うことができ、生徒は熱心に取り組み、美術への関心を高めることができたと感じる。鑑賞の授業や実技の導入段階においては、美術文化についての言及を増やし、さらに理解を深めていきたい。</p>
A	B	C	D										
96%以上	95～86%	85～76%	75%以下										
芸術科 書道	<p>書の伝統と文化についての理解を深める。</p>	<p>書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。 [授業アンケートにおける全項目のA+Bの割合]</p> <table border="1" data-bbox="871 1326 1433 1399"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> <tr> <td>96%以上</td> <td>95～86%</td> <td>85～76%</td> <td>75%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	96%以上	95～86%	85～76%	75%以下	A	A	<p>臨書、作品制作とともに誠実に取り組む姿勢が見られ、後半は特に創意工夫する意欲の増加が感じられたことが成果であり、所期の目標を達成することができた。</p>
A	B	C	D										
96%以上	95～86%	85～76%	75%以下										

英語科	語学を学習する意義を理解させ、またその楽しさも経験させる。	<p>理解すべきは理解し、覚えるべきは覚え、活動すべきは活動するように指導する。</p> <p>[授業アンケートにおける全項目のA+Bの割合]</p> <table border="1" data-bbox="871 296 1433 368"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～65%</td> <td>64～50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～65%	64～50%	50%未満	A	A	毎時間授業に関する提出物を課したが、生徒はいやな顔1つせず1年間完璧にやり遂げた。本当によく頑張った。来年度以降授業がなくなるのが残念である。
A	B	C	D										
80%以上	79～65%	64～50%	50%未満										
家庭科	生活をよりよくするために自分の生活の中から課題を発見する力や課題を解決する力を養う。	<p>ICT機器等の活用や板書の工夫等授業のユニバーサルデザイン化を推進するとともに、実践的・体験的な学習活動を効果的に取り入れる。</p> <p>[授業アンケート項目9におけるAの割合]</p> <table border="1" data-bbox="871 552 1433 624"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～45%</td> <td>45%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～45%	45%未満	B	B	「授業は、真面目に、かつ一生懸命に取り組んでいる」と回答した生徒の割合は75.0%と昨年度(54.5%)より上昇した。授業のUD化の推進をを継続するとともに、実習等の制限がある中でどのような学習活動に取り組むことが可能か考え実践していきたい。
A	B	C	D										
90%以上	89～70%	69～45%	45%未満										
商業科	オフィスで用いる実務的な情報活用能力を育成する。プログラミング的思考力を高める。	<p>オフィスで用いる情報処理能力の向上やプログラミング能力の育成を図り、授業を充実させ、授業満足度を高める。将来に向けて、社会人として必要な知識・技能を身に付ける。プログラミング学習では他者との協働学習を展開することで、思考・判断・表現力を身に付け、学ぶに向かう力を涵養する。</p> <p>[生徒の授業評価アンケートA+Bの割合]</p> <table border="1" data-bbox="871 995 1433 1067"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90%以上</td> <td>89～70%</td> <td>69～45%</td> <td>45%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	90%以上	89～70%	69～45%	45%未満	B	B	社会で役立つ実践力が身につくことを目標に、基礎・基本の内容の学習に取り組んだ。授業アンケートの評価は目標に掲げている数値は大きく上回ってはいたが、「自己評価」の低い生徒がおり、生徒達には将来に向けて前向きに頑張っていてほしいと願っている。
A	B	C	D										
90%以上	89～70%	69～45%	45%未満										
総合的な学習(探究)の時間	地域の産業や文化・歴史を研究し、その魅力を学ぶことにより、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた言語活動・探究活動の充実を図る。	<p>研究過程で生ずる課題を解決するにあたって必要な知識及び技能を身に付ける。また調査によって得た情報を分析し、まとめ表現する力を身に付ける。</p> <p>[探究学習に対して肯定的評価をしている生徒の割合(独自アンケート)]</p> <table border="1" data-bbox="871 1289 1433 1361"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80%以上</td> <td>79～65%</td> <td>64～50%</td> <td>50%未満</td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	80%以上	79～65%	64～50%	50%未満	A	A	アンケートの結果A評価だった。今年度は縦割りグループ活動を実施した。その結果、格差はあるが、課題解決能力が高まり、調査研究に対する探究心が高まった。発表会を2回実施したことで表現する力も向上した。
A	B	C	D										
80%以上	79～65%	64～50%	50%未満										

<p>学校関係者 評価委員会 による評価</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症のため、親子の交流を含むP T A活動が充分実施できなかったのは残念である。ただ、P T A会員の活動への参加意欲は高く、感染対策と両立しながら、学校と家庭が連携・協同して地域に愛される学校づくりを進めてほしい。</p> <p>○I C Tの導入が進む中、授業におけるタブレットP Cの利用など、活用の工夫がなされている。地域からも学校におけるI C T活用の取組が注目されている。教職員のスキルアップに努めてほしい。</p>
<p>次年度に向けた改善の 方向</p>	<p>○新型コロナウイルス感染防止を徹底しつつ、できる限りの工夫により学習活動や学校行事を活性化し、生徒の自己肯定感を高める指導を実践する。また、学校・家庭が連携・協同して、P T A活動の活性化に努める。</p> <p>○引き続き個に応じた指導法や授業におけるI C T活用の研究を進める。</p>